

《担当者名》非常勤講師 / 保岡啓子

【概要】

人間の生活に焦点を当て、病や健康の歴史的变化を考える。内容は、二つの部分から構成される。第1に、社会の変化とどのように関係して最先端医療が受容されてきたのかをグローバルな視点から取り上げる。ローカルなヒトやモノの移動が、人間の健康にどのような影響を与えたのかみる。第2は、考察地域を日本と北米に絞り、とりわけ脳死・臓器移植に代表される最先端医療を考察するものである。人々の死生観などの伝統と近代化が、どのように変容してきたのかをみていく。最終的には、現代日本に生きる私たち生活が、疾病や医療の側面からどのようにして形成されてきたのか考える。

【学修目標】

- 1) 最先端医療の歴史を学ぶことで、異なる文化や価値観を尊重することができる。
- 2) 日本を含む医療のグローバル化を俯瞰することができる。
- 3) 医療と社会との関係について考察し説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	授業全体の構成を概説できる。	保岡啓子
2 3	病気と老いと健康の歴史を考える	環境の変化を問題にする理由や見方を、人口変化、経済開発、都市化などをトピックにして説明できる。	保岡啓子
4	最先端医療の世界史	紀元前から21世紀まで、最先端医療を概観し、医療の発展が、人間の健康に与えた影響を説明できる。	保岡啓子
5	最先端技術と死の基準の歴史	古代から、世界で死はどのように受け入れられてきたのか、脳死・心臓死以前の死の定義についても説明できる。	保岡啓子
6	「文化の問題」としての臓器置換（移植）の歴史	臓器移植を通じて、医療を「文化の問題」として捉えてみた時、先端医療が包含する文化的側面を説明できる。	保岡啓子
7	医療提供者（ドナー）の歴史	19世紀から21世紀における医療提供者（献体、献血者、骨髄・臓器ドナーなど）の歴史を説明できる。	保岡啓子
8	日本の「脳死・臓器移植」の歴史	日本の脳死移植史の特異性をグローバルな医療社会史の視点から説明できる。	保岡啓子
9	日本のイエ（家）制度と臓器の親族優先提供法	近代極東アジアと日本の家制度と臓器の優先提供の関係性について説明できる。	保岡啓子
10	医療のグローバル化と医療難民	医療のグローバル化と日本の臓器移植における医療難民の関係性を説明できる。	保岡啓子
11	医療の規制緩和	日本の高齢化と移植医療におけるマージナルドナーの出現との関係性を説明できる。	保岡啓子
12	医療と人権	超高齢化社会の到来と認知症患者の自己決定権について説明できる。	保岡啓子
13	医療の国際化	日本の少子高齢化と医療が外国人労働者受け入れ政策とどのように関係しているのかを説明できる。	保岡啓子
14	超高齢化社会とAIロボット	現代における社会現象と医療・科学技術との関係を説明できる。	保岡啓子
15	まとめ	授業の全体の内容を、質疑応答を通じて深めることができる。	保岡啓子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート（レスポンスペーパーを含む）100%（構成、表現、内容などの観点から評価）

【備考】

授業中にプリントを配付。

この授業は医療技術学部との合同授業である。

【学修の準備】

各回予習1時間、復習3時間程度。とくに復習では、配布済み資料を確認しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な基礎知識を医療社会史の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を医療社会史の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる基礎能力を医療社会史の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を全部床義歯補綴学の分野で実践するために必要な基礎知識を医療社会史の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な基礎知識を医療社会史の観点から修得する（社会的貢献）。